

ウイルス性食中毒の病因

西尾治, 西香南子, 福田伸治, 西田知子, 篠原美千代, 三上稔之, 沖村容子, 川奈緒美, 杉枝正明, 古屋由美子,
大瀬戸光明, 鈴木宏

臨床とウイルス, 31(3), 163-169, 2003

ノロウイルス(NV)とA型肝炎ウイルス(HAV)による食中毒発生防止を目的として, 市販生食用カキ, 養殖海域の海水とカキ, 患者検体, 輸入食品のNV検索と定量を行った。市販生食用カキは2001年10月から2002年3月の採取の204ロットを用い, 1ロットにつき5個をプールして1検体とした。NV陽性ロットは1月をピークに12~3月に見られ, 5ロットに1000コピー/個以上の高濃度汚染が認められた。NV食中毒の発生状況と比較すると, カキのNV汚染との関連性が強く示唆された。HAVは検出されなかった。

海水と同一養殖筏におけるカキのウイルス量の定量では, 海水とカキのNV汚染は必ずしもパラレルで

なく, また, 同一筏から採取したカキも個体によりNV汚染量が著しく異なっていることが判明した。海水からの検出感度向上, カキ筏内の位置による汚染の違いを明らかにすること等が今後の課題である。

患者の吐物中NV量は, 多いもので105コピー/g以上認められ, 吐物の適切な処理が防疫上重要であることが判明した。

輸入食品では, 二枚貝244検体中36検体(15%)からNVが, 3検体(1%)からHAVが検出された。また, エビ類24検体中2検体(8%)からNVが検出された。これらことから, 海外からの輸入魚介類のウイルス汚染が明らかとなった。

In vitro effects of combinations of antipseudomonal agents against seven strains of multidrug-resistant *Pseudomonas aeruginosa*

S. Oie, T. Uematsu, A. Sawa, H. Mizuno, M. Tomita, S. Ishida, Y. Okano and A. Kamiya
J. Antimicrob. Chemother., 52, 911-914, 2003

多剤(piperacillin, meropenem, ceftazidime, cefoperazone-sulbactam, aztreonam, amikacin, ciprofloxacin)耐性でPFGE解析により遺伝子型が異なる*Pseudomonas aeruginosa* 7株について薬剤の併用による菌の増殖抑制効果を検討した。

aztreonamとamikacinの2剤の併用で, 7株中5株は増殖が抑制された。ceftazidime, aztreonamおよびamikacinの3剤併用, piperacillin, ceftazidimeおよびamikacinの3剤併用では7株において増殖の抑制効果が認められた。